

学年
通信

魂知輪

令和6年12月2日
第32号
小代中学校3年生
発行者:梅谷俊平

『振幅を小さくするためには…?』

期末テストが終わりました。提出してもらった学習計画表を見て、気が付いたことをお伝えしようと思います。まず1つ目。勉強時間が増えました。平均値ではありますが、1日あたり3時間半はコンスタントに勉強しているという結果です。(勉強時間が一番多い人は、6時間超のペースでした)個人差はあるとして、それぞれが少し意識を変えて机に向かう時間を増やした、ということは事実だと思います。

2つ目ですが、後半になるにつれて、勉強時間が増えたということです。平均が3時間半ということなので、後半に6時間も7時間も机に向かったということです。毎日3時間しておけば、終盤のしんどさは、なかったのかもしれませんが。前半にもう少しだけしんどい思いをしておけばよかったのではないかな、と私は思います。

この2つを基に、あとは返却されるテストの点数と、自分が目標としていた点数、あるいは自分がこれくらい取れていただろうという点数と比較して、その差が小さければ小さいほど、目標達成と言えるのではないかと思います。差が開いてしまった人は、その原因が何だったか考え、冬に対策をしていかなければいけないと思います。

個人面談を何度もする中で、『自分の進路』について、真剣に向き合う人が増えてきたように感じます。そう感じた理由としては、悩みが出てきているということです。本当にそこを目指すことが自分にとって一番良いのか、という悩み、勉強についていけるかという悩み等がありました。自分自身のことを自分が一番考えないといけないという話がじわじわと効いてきたのかなと思うと、ほっと安心するのですが、もう12月です。安心してばかりではいけません。

朝学活で、曲線を書いて説明をしました。頑張る時と、力を抜くときの差(振幅)が大きければ大きいほど、上げる時のエネルギーは大きくなります。脱力をすることは大事ですが、力を抜きすぎると、後で大変になってきます。いい冬を過ごせるように、それぞれ考えて行動してほしいと思います。

人任せにすると自分がなくなる

臨時生徒総会を開きました。生徒数減少に伴う、生徒会規約の改正がテーマでした。3年生は直接関係ないかもしれませんが、これからの後輩のために、という思いが大きかったのではないかと思います。全員が揃い、全員が提案に対して賛成の挙手をしました。とても嬉しかったです。

27人という少数でも、誰かに任せようと思えば、誰かがやってくれます。誰かがやってくれなくても、また誰かが声をかけてくれて…。何の困難もなく、普通に学校生活を送ることができると思います。しかし、『なぜ自分はここにいるのか』

『なぜ自分はここで集団生活をしているのか』という意味付けを考えると、納得がいく答えが出てきません。誰かに支えられながら誰かを支え、誰かに助けられながら誰かを助けて生きていくのが世の中では当たり前です。その縮図が学校です。

楽しんで生きたとしても何も楽しくないと思います。今回みなさんは、一生懸命考えて、一生懸命判断しました。この気持ちを大切にしてほしいと思います。

梅子からの挑戦状

問1 次の英語を日本語に直してください。

I think that that that that that that boy wrote is wrong.

問2 「x」に「a」から「z」まで順に入れて、かけていった場合、答えはいくつになるか？

$(x - a)(x - b) \cdots (x - z) = ?$

問3 受験で問題が1000個出題されるのはどんな学校？